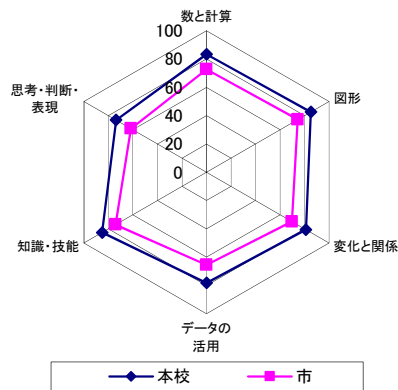


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.4	72.6	71.6
	図形	85.2	74.4	72.0
	変化と関係	81.2	69.8	62.6
	データの活用	78.3	65.5	59.1
観点別	知識・技能	85.1	74.1	68.9
	思考・判断・表現	73.8	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○分数や小数の四則計算の設問では正答率がいずれも9割程度であった。計算ドリルやプリントを利用して繰り返し課題に取り組んだ成果であると考えられる。 ●分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ設問では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率は5割程度であり課題といえる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題に合わせて四則計算を活用するような問題に、これまで通り取り組むことで、解法に習熟するとともに応用的な問題に対応する力をつけさせたい。 ・授業場面で正答の確認に終始せず、誤答を基に学び合える授業展開を推進することで、思考力・表現力の向上を目指す。
図形	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○面積が一定の平行四辺形の底辺と高さの関係を表した式を選ぶ設問では市の平均を16.6ポイント上回っている。面積や体積の考え方を指導した成果であると考えられる。 ●正八角形の作図方法から、内角の大きさを求める設問の正答率は、市の平均を上回っているが、6割に届かず更なる習熟が必要だと言える。	・面積と体積、平均や密度等の考え方や求め方に関する課題を定期的に出すことで、復習する機会を設け、学習内容の定着を図りたい。 ・本領域に対して苦手意識をもっている児童には、個別に声を掛けて基礎的な内容を習熟させることで学力向上を目指す。
変化と関係	平均正答率は市の平均よりも高い。 ○道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ設問の正答率は91.2%で市の平均より6.5ポイント高く、十分な定着が図れているといえる。 ●走る速さが異なる二人が同時にゴールするためには距離をいくつに設定すればいいのかを求める記述式の設問の正答率は59.8%で、市の平均よりも17.8ポイントと上回ったものの6割に届かず、さらなる習熟が必要だといえる。	・今後も、面積や平均の求め方について定期的に復習する時間を設け、学習内容のさらなる定着を図る。 ・課題を設定する際には普段の生活から数量の変化の關係に目を向け、興味関心をもつことができるように、実生活に関連付けた事象を取り扱う。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。また、どの設問においても、全て市の正答率を上回り良好である。 ○ソフトボール投げの記録の結果のデータから平均値を求める設問の正答率は95.1%で、市の平均より16.5ポイント高く、よく理解できていた。 ○いろいろなグラフの読み取りに関する内容で、折れ線グラフを読み取る設問の正答率は86.3%で、市の平均より15.4ポイント高い。 ●もとにする量の大きさが違うときの割合の大小と比べる量の大小は一致しないことを、具体的に説明するという記述式の設問の正答率は47.1%と、市の正答率を13.4ポイント上回ったものの、データの活用に関する設問の中での正答率は低く課題である。	・今後も、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもって、統計的な問題解決の方法で考察できるよう指導していく。 ・目的に応じたデータの収集や分類整理、表やグラフ、代表値の適切な選択など、一連の統計的な問題解決の方法を理解するだけでなく、その結果や結論を批判的に捉え、妥当性について考察したり、自分の考えを整理してまとめたりすることができるよう指導していく。